

# 学びの楽しさを、指導しましょう。

石井康雄（前船橋市立金杉台小学校 校長）

Q

**6年生「およその形と大きさ」では、どのようなことを指導したらよいのでしょうか？**

A

およその形とは、数で言えば、見積もりや概数に相当するとらえ方です。見積もりや概数の指導では、だいたいどのくらいかを知るだけで十分な場合に使うことを指導してきました。本単元では、この概数の考え方を図形の計量にも適用し、測定を目的に応じて能率よく行えるようにすることを目標としています。

大仙古墳のおよその面積は、これまで学んだ知識に加え、歴史を学んだ6年生のこの時期にふさわしい教材です。ですから、身のまわりのものの形を既習の図形と見なして、およその面積を求めさせましょう。また、少し複雑な形を三角形や四角形に分解すれば、日常生活で目にする様々な形としておよその面積や体積を測定することができるようになります。

P192の浴そうの問題は、宿題などで自宅の浴そうの容積を調べる学習に発展させましょう。そして、自宅のお風呂のお湯の量は500mlのペットボトル何本分か、学校のプールの容積は自宅のお風呂の容積の何倍か、といったことを問いかけて、量感指導や水資源の大切さに気づかせましょう。

P193で紹介されている「体積のはかり方の工夫」は指導しないと気づきにくい問題ですので、子供の気づきを引き出したい場合は、ヒントを与えるようにしましょう。

